

第4回水稲病害虫発生予察結果(伊豆市内)

5月上旬田植えの早生品種(コシヒカリ・キヌヒカリ等)

【稲の生育状況と田んぼの管理について】

5月上旬に田植えをした早生品種の圃場では、茎の内部に幼穂(穂のもとになる部位)が平均で0.3~0.4cm程度確認できました。幼穂が確認できる田んぼについては、生育に水が必要となりますので、中干しを終了して間断灌水(水が減り表面が見えたら、水を張るを繰り返す)に移行してください。

【穂肥について】

元肥一発肥料を使用していない方は、穂肥の施用が必要となります。穂肥のタイミングは幼穂が0.5cmから1.5cm程度になったら施用します。穂肥は1回目と2回目に分けて行いますが、1回目の穂肥を施用した1週間後に葉が濃い緑色をしている場合は、2回目の穂肥を施用する必要はありません。

穂肥の施用のタイミングと、施用量は下表をご確認ください。



《穂肥(マップ456)施用基準》

幼穂の長さ	出穂前日数	回数	施用量
0.5cm	20日前	1回目	20kg/10a
1.5cm	18日前		
5.0cm	12日前	2回目	10kg/10a

【病害虫の発生状況について】

今回の調査では、一部の圃場でいもち病が確認されました。

平均気温が15~25度で葉の濡れた状態が長時間続くと感染しやすい状態となります。

早期発見・早期防除を行って下さい。

詳しくはJAふじ伊豆ホームページ「第3回予察結果」をご覧ください。



【幼穂の確認方法】

1. 株の中で一番長い茎を株元から抜く。
2. カッターで茎を上から真半分に切る。
3. 幼穂(白く伸びた穂のもとになる部分)が確認できる。



幼穂の長さ	出穂前日数
0.1cm	25日
0.5cm	20日
1.5cm	18日
5.0cm	12日

5月下旬田植えの中生・晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等)

【稲の生育状況と田んぼの管理について】

現在1株の分茎数が18本程度となっています。分茎数が20本になる頃が中干しの適期となります。中干しは、穂がつかない無駄な分茎を抑える効果や、土の中の有害なガスを抜き、根に酸素を与える効果があるため、田んぼに軽くヒビが入る程度(下の図参照)まで行ってください。



丁度いい中干し



干しすぎたことにより根の切断が起きている